

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年3月22日

学校法人 宝国学園 真教寺宝国幼稚園

1. 本園の教育目標

一人ひとりの今が輝く保育

- ・みほとけさまを拝む子ども
- ・お話を聞ける子ども
- ・ありがとうと言える子ども
- ・仲良くできる子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ・子どもの心情に寄り添い、主体的な学びにつなぐ保育を目指す。

{重点課題}

- ・こどもが主体的に遊びを展開できるような環境構成・計画を相談しながら、たてる
- ・異年齢保育の充実
- ・体力・運動能力が遊びの中で育まれるようにする
- ・公開保育など研究保育を行い、講師や他園と学びを深める

3. 評価項目の達成及び、取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	子どもの主体性を育む 保育・環境構成。	B	子どもとの対話の中で、発達に応じた環境構成をした。 (例えば、保育の中で必要な環境として突発的に水族館やパン屋さんに行く等) 来年度は今年取り組みの中で引き続き必要な内容は計画に入れておくようにする。
2	公開保育や研究保育	A	講師の先生に公開保育の指導計画から見て頂き、また他園の先生にも見てもらい一緒に学ぶ場となった。
3	チーム保育	B	会議や研修、面談等で話し合いの場を設け全体で共有できた。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果なかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	子どもの姿やカリキュラムの共有はよくできていると思うが、園全体として職員の理解に温度差を感じる面も多少見られた。クラスはもちろん他クラスや園の運営面も協力して行っている体制づくりをしたい。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果なかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	保育の継続性	異年齢保育や運動遊びをカリキュラムに入れているので継続して遊んでいきたい。また夏季保育に異年齢保育をするのは良かったので引き続きしていきたい。
2	保護者との信頼関係や共通理解	Webでのやりとりが増えたので保護者との対面でのコミュニケーションが薄くならないよう意識して登降園時などの話をするようにしたい。普段会えない(バス通園等)保護者の方とは定期的に声を掛け園の様子を伝えていくようにしたい。
3	環境構成	子どもの発達に応じた保育環境を園全体で話し合い構成していきたい。

6. 学校関係者評価委員会の評価

・キッズビュ-を本格的に導入していくための過渡期なので、お帳面とwebの両方があった方が、保護者側もキッズビュ-の使い方に慣れてきたので、園との連絡手段においてキッズビュ-を利用するのはよいと思う。  
・異年齢保育で他学年の子供とふれ合うことで、自分の役割や、ふりまは学ぶことができてよかった。

母の会会長 松田由紀